

困難状況にある子どもへの学習支援

代表者 人間文化研究科 准教授 谷口由希子

連絡先 tyukiko@hum.nagoya-cu.ac.jp

連携・協力者 名古屋市健康福祉局
名古屋市子ども青少年局

ポイント 学生がボランティアで地域に出向いて活動に参加します

1 概要

- 生活困窮世帯やひとり親世帯、児童養護施設等で生活する子どもたちへの大学生による学習支援で、名古屋市健康福祉局及び子ども青少年局が所管する事業です。
- 受託事業者のNPO法人や施設等を通じて、本学の学生も平成25年度から学習支援活動を行っています。

2 活動内容

- 学生が子どもの自宅近くのコミュニティセンターや施設等の生活拠点に出向き、勉強を教えています。勉強の他にも、一緒に夕食を食べたり、ボウリング大会等のレクリエーション活動に参加することもあります。
- 本学では、地域と連携した地域志向の教育を実施し、地域の課題解決策を議論する教養科目として「地域連携参加型学習」や、ボランティア活動について単位を付与する「ボランティア科目」を設けています。これらの科目の一環としても、こうした学習支援活動に参加しています。
- その他、単位とせず、個人的に学習支援活動に参加することも可能で、学部・研究科を問わず多くの学生が参加しています。

3 成果

- 30年度の教養教育科目「地域連携参加型学習」の1グループでは、困難状況にある子どもの学習支援とあわせて、子ども食堂*の学習会や活動、ひとり親家庭の子どもたちの居場所支援事業に参加しました。

授業のまとめでは、調査・活動した結果をもとに「課題解決に向けた提案」の発表を行い、名古屋市役所にて子ども青少年局長はじめ行政職員に次期「子どもに関する総合計画」について提案を行いました。

*子ども食堂：地域の大人が子どもたちに無料や安価で食事を提供する取組



地域連携参加型学習で活動に参加した子ども食堂